



高志台

NAGAOKA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

学園だより

Vol.173

2012. 3. 19発行



CONTENTS

- 02 卒業・修了おめでとう
- 03 卒業生・修了生に贈ることば
- 04-11 さよなら高志台(卒業生・修了生)
- 12-13 さよなら高志台(退職教職員)
- 14-15 専攻科だより
- 16 トピックス

★ 高志台 (こうしだい)

古代、新潟県を含む日本海側の一帯は、“こしのくに”(越の国・古志の国・高志の国)と呼ばれていました。
 学生に高い志をもってほしいとの願いと歴史上の地名とを関連させて学校の
 ある台地を「高志台(こうしだい)」と命名しました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校

Nagaoka National College of Technology

〒940-8532 新潟県長岡市西片貝町888 <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/>

卒業・修了おめでとう

校長 渡邊 和忠



本日、長岡工業高等専門学校を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。多くのご来賓、ならびに保護者の方々のご列席のもと、長岡工業高等専門学校第46回卒業式ならびに第11回専攻科修了式を執り行なうことができますことは誠に喜ばしく、教職員一同を代表して卒業生・修了生の皆さんに心からお祝いの言葉を申し上げます。また、長年にわたってご子弟を支え、見守ってこられたご家族やご関係の方々におかれましては感慨もひとしおのことと、お慶び申し上げます。

今年度、学科を卒業するのは、機械工学科42名、電気電子システム工学科45名、電子制御工学科42名、物質工学科37名、環境都市工学科39名の合計205名です。これらの卒業生のなかには遠く母国を離れて、本校で勉学に励んできた留学生7名が含まれております。また、専攻科を修了するのは、電子機械システム工学専攻21名、物質工学専攻7名、環境都市工学専攻9名の合計37名です。

本日、卒業・修了される皆さんは、早くから技術者への道を選び、本校に入学してきました。そして人生において最も大切な成長の時を本校で過ごし、今や心も身体も立派な大人に成長しました。入学したての頼りなげに見えていた子供たちが、技術者としての専門知識や技術を修得し、課外活動、社会経験などを通じて人間としての総合的な力を身につけ、頼もしい大人として社会へ巣立ち、あるいは専攻科へ、また、大学・大学院へと進学して行きます。私たち教職員にとって、日々、成長していく皆さんと苦労や喜びを分かち合うことができたことが何にも勝る大きな喜びであります。

長岡高専は全国の高専に先駆けること1年前に、長岡工業短期大学として開学し、昨年、50周年を迎えました。本校創立当時の高度成長期から現在に至るまで、高専出身者を始めとする技術者が高い志をもち、たゆまぬ努力によって日本の発展を支えてきました。

近年、新興国を始めとする国々の技術力が向上し、大抵のものは日本以外でも造ることができるようになりました。このような状況においても、優れた技術者を育てるしっかりとした教育システムと、そこで植え付けられた「技術者魂」がある限り、これからも日本は技術立国として世界をリードすることができるかと確信しています。私たちは皆さんが「人類の未来を切り拓く感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」として活躍できるようにと願い、皆さんを支え、共に頑張ってきました。資源のない日本は、世界に技術革新を巻き起こすような素晴らしい製品を産み出していくしか生きる道がありません。これからも、いや、以前にも増して日本には創造性豊かな優秀な技術者が必要なのです。皆さんが優れた技術者として、これからの日本を引っ張ってくれることを切に願っています。

皆さんの年頃に、経験したこと、学んだことが人生全ての礎になります。受験勉強に縛られることもなく、勉学に、課外活動に、社会活動に打ち込み、自らの研鑽に励むことも他ではできなかった経験でしょう。また、早くから最先端の技術に触れ、自らの心の中に「技術者魂」を植え付けたことに大きな意味があります。本日、授与された卒業証書・修了証書は、皆さんが人間としての総合力を備え、技術者として必要な知識・技術・能力を身につけた証です。私たちは、皆さんが長岡高専で過ごした日々こそが、今後の人生の大きな糧になるであろうことを信じております。長岡高専の卒業生・修了生であることに自信と誇りをもって新たな道に踏み出して下さい。

これからの長い人生において楽しいこと、嬉しいこともたくさんあるでしょう。しかし、必ずや壁にぶちあたってしまうこと、苦しいこと、辛いこともあるに違いありません。そんなときには、「高志台」の丘で過ごした日々を思い出してください。また、長岡高専を訪ねてきてください。きっと元気が出て乗り越えることができます。本校の卒業生・修了生の皆さんが、元気で活躍してくれることが私たちの喜びです。私たちは、これからもずっと皆さんのことを見守り、応援しています。

卒業生・修了生 おめでとう

長い航海への船出

後援会長 古田島智裕



卒業生、修了生の皆さん、卒業おめでとうございます。長きにわたりサポートされてきた保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。創立50周年という記念すべき年に卒業を迎えられた皆さんの最後の1年は、東日本大震災を始めとして、台風、洪水など日本のみならず世界中を災害が襲うという激動の1年となりました。中には、ご自宅が被害に遭われた人もいるかもしれません。東日本大震災のせいで、希望していた進学先や就職先を変更した人もいるかもしれません。このような大変な時期に卒業を迎えられた皆さんには、是非日本の将来を担う人材になって欲しいと思います。

卒業後の皆さんは、更に勉学に励む人や技術者として社会人の仲間入りをする人々だと思えますが、どのような道を歩んでもそれは決して平坦な道ではありません。いろいろな問題に突き当たり、悩む事があるでしょう。勿論、苦しい事ばかりではありませんが、今まで以

上に悩む事が多くなるのではないのでしょうか。しかし、「神は乗り越えられる試練しか与えない。」と言います。ポジティブシンキングで前向きに考え、対応する事でいつか活路が見いだせるはずです。そんなときに親身になって相談に乗ってくれる友人、仲間がいればより良いでしょう。悩みを相談する事で心の負担が減り、気持ちが楽になります。時には正しい判断をしてくれます。何よりも、問題を共有して一緒に悩んでくれます。自分は決して一人では無いという思いは、きっと気持ちを楽にしてくれるでしょう。これも、この1年よく言われた「絆」ではないのでしょうか。私も、多くの職場の仲間を支えられ仕事をこなしていますし、古くからの友人にも精神的に助けられています。皆さんも何でも話せる友人・仲間を、大切にしてください。そんな存在になって下さい。そして、これからの長い航海を乗り越えて行って下さい。

最後に、高志台を巣立ち新たな旅立ちを迎える皆さんに、私の好きな言葉「One for all All for one」を贈り、お祝いの言葉とさせていただきます。

新たな旅立ちへ

同窓会長 伊藤 恒彦



今春それぞれの新たなステージへ旅立つ卒業生の皆さん、この日を待ち望まれたご家族の皆様にお祝い申し上げます。

今年の卒業生の皆さんが、高専生として高志台で新たなスタートを迎えた時、新潟中越地震により被害を受けた校舎の復旧も終わり、新しい校舎でのスタートであったと思います。また、皆さんが入学した年には中越沖地震が、さらに昨年は東日本大震災の発生と二つの大きな地震を体験されましたが、このことはこれから歩む人生にとって貴重な経験になるものと思います。

さて、最近では国の内外をとわず、「Change」をキーワードに多方面で変化が現れ、そこではこれまでのルールでは通用しない事が起こり、その中で生き抜くには自らが先んじて変わっていく必要があります。

それには、変化を的確に捉え、より早く変化に対応できる能力が求められるのではないのでしょうか。

このような時代の中、経済界においてはユーロ圏の国債格下げに始まったヨーロッパ危機が全世界に影響を与え、日本を含め世界的に厳しい状況はまだまだ続いており、雇用面においても厳しい状況が起こっています。

また、自然界においても温暖化現象やタイの大洪水を初めとした世界各地の異常豪雨、東日本大地震などが発生し、自然災害が企業の生産活動に大きな影響を与え、経済面にさらなる厳しい状況が生まれているのではないのでしょうか。

一方で、昨年の小惑星探査機「はやぶさ」の帰還などに代表されるように、日本の科学・技術力は世界に誇れるものであり、これからも世界に誇れる多くの技術者が生まれるものと期待しています。

皆さんはこれから専攻科、大学へ進学する方、就職され社会に出られる方と、それぞれの道に進むこととなりますが、自分で選択した新しい道に自信を持ち、迷いなく、悔いを残さぬよう歩んでいただきたいと思います。

新しい道には、いくつものハードルを越えて進むこととなりますが、高志台で学び、過ごした皆さんは、ハードルを越えるために必要な知識や対人関係についての能力は十分備わっているものと考えています。

最後に、高志台から巣立つ皆さんが、自分の力を信じ新たなステージで高専卒業生として活躍されることを期待すると共に確信しています。

皆さんの新たな旅立ちにあたり、『健全なる精神は健全なる身体に宿る』の言葉を贈り、お祝いの言葉とさせていただきます。



絆

土肥 一生

街中の雪も解け始め、例年どおりの春が訪れようとしています。ですが、自分の心は複雑な感情を抱えています。それは、この5年という月日が長いようでとても短く、入学したことをつこないだのように思えるからでしょうか…。

長岡高専では多くのものを得ることができました。知識はもちろんのことですが、自分が最も大切にしたいものは友達との絆です。高専に入学した頃は、寮生活や慣れない授業で不安に満ちていました。そんな不安を和らげてくれたのは友達でした。彼らと過ごす日々は毎日が楽しく、自分の抱えている悩みが些細なことのように思えました。彼らとつくった思い出は数え切れないほどあります。研修旅行に体育祭、学園祭、日常のくだらない会話、すべてがかげがえのないものです。

きっと、友達との充実した日々が5年という月日をあっという間なものとしたのでしょう。

高専生活を終え、進学という道を選んだ自分は新たな学校で新たな絆をつくっていくのでしょうか。しかし、5年間を共に過ごした友達との絆は特別なものです。この絆を大切に、新たなスタートを切りたいと思います。そして、みんなこれからもよろしく。



卒業

藤崎 達基

私は5年前に長岡高専に入学しました。そして5年たった今卒業に向かっていきます。

今思うと、この5年間の日々はとても速かったと感じます。最初の一年目で今のクラスの仲間達と出会い、それから5年間毎日通学して、勉強して、遊んでの繰り返しでした。しかし、このいつも通りの毎日にも終止符が打たれる日が来ました。これまで毎日友人と過ごしてきた日々が、当たり前ではなくなってしまいます。しかしこれからは皆、別々の道を進み、そこでまた新しい仲間を見つけ、毎日を過ごしていくと思います。

この5年間でできた友人は、私にとってとても大切な宝物だと思います。今私が5年まで進級できたのは、

機械科の仲間たちが、私を助けてくれたからだと思います。高専の入学者の中には、高専に入学してしまったことを、後悔している人もいます。でも私は、高専に入学したこと、この仲間たちと出会えたこと、卒業できたことを誇りに思い、仲間への感謝の気持ちを忘れずに、新しい道を進んでいきたいと思っています。



*最後の試験 ~長岡高専卒業検定~

1~2学年クラス担任 江田 茂行

5年間学んだ長岡高専に関する卒業検定(○×式10問)。

- ① 学校長名を漢字で書ける。
- ② 校歌1番を歌詞なしで歌える。
- ③ クラス担任の名前を漢字で書ける。
- ④ 所属学科先生の名前を漢字で書ける。
- ⑤ 卒業研究について小学生にもわかりやすく説明できる。
- ⑥ 高専で学んだことを瞬時に思い出せる。
- ⑦ 何でも相談できる親友が10人以上できた。
- ⑧ お世話になった教職員へ卒業挨拶を済ませた。
- ⑨ 高専でやるべきことを後輩に伝えることができる。
- ⑩ 保護者やお世話になった方々(中学校の担任・先生など)へ進路報告と感謝の気持ちを伝えた。全問○「マル」の人は、「卒業おめでとう」の言葉を贈ります。ひとつでも「×」がある人、卒業するまで努力してください。



「長岡高専卒」に誇りを

3~5学年クラス担任 山岸 真幸

このクラスでは、「初めて」がいくつもありました。新しい講義・実習、見学旅行、さらには日々の学校生活において、君たちが胸を張って「長岡高専卒業生です!」と言えるよう、経験と学習の場を用意しました。他のクラスと違ったことが多かったと思いますが、他の高専や高校では、当たり前のように行われていることもあります。君たちがこれから進む道では、多くの困難や辛いこと、予期せぬ出来事が待ち構えているかもしれません。そのとき、この5年間で得た力や仲間たちが、きっと助けになると信じています。これまで多くの先輩たちが、半世紀をかけて「長岡高専」の名を高めてきてくださいました。君たち自身が、そして先輩・後輩たちが「長岡高専卒業」に誇りを持てるよう、今度は君たちが、それぞれの進路先で努力を積み重ねてください。卒業、おめでとう!



ありがとうございました

長澤 忍

気が付いたら5年間が過ぎていました。入学当初、5年間は長いんだろうなあと思っていただけに不思議な心境です。1年生のころとても大人びて見えた5年生に、今、自分になり、卒業を迎えていることがなんだか夢のように感じられます。

5年間の高専生活を振り返ると、勉強、部活動、寮生活…など様々な出来事がありました。楽しいことも辛いこともたくさんありましたが、それらを通して強く感じたことがあります。それは、実に多くの人とのかかわりがあり、支えられてきたということです。クラスメイトはもちろん、部活動、寮生活などを通してたくさんの他学科の友人、先輩や後輩とも知り合うことができました。とりわけ3、4歳も歳の離れた先輩、後輩と知り合えたのは高専ならではの経験だったと思います。

来年度からは新たな環境での生活が始まりますが、この高専生活で広げることができたつながりをこれからも大切にしていきたいと思います。5年間ありがとうございました！



いろいろな人に会いました

込山 恭平

絵を描くのが好きな人。目標を定め、陸上をがんばる人。ごはんを残さない人。留学してきた人。寮をより良くしようとする人。バンドで演奏する人。「俺勉強してないわ〜」と言いながら100点とる奴。スポーツを楽しむ人。演劇で物語を作る人。覇気を使える人。物事を教える人。一緒に笑いあえる人。仲間を大切に人。

5年間の高専生活で、数え切れない程の人と出会い、話し、笑いあい、楽しい時間を共にしてきました。ですがもうお別れです。もうすぐ学生を終え、社会人としての生活が始まります……はあ…。

「早く社会に出て働きたいけど、高専のみんなとは別れたくない。」学生最後の年にこんなことを思いました。僕の毎日の生活は幸せだったってことです。それはいろいろな人に会ったからで、その出会いが僕の高専生活を楽しくしてくれました。

みなさん卒業する時、自分自身に聞いてみてください。「高専楽しかった？」って。そして僕と同じように「もちろん！」と答えられる人になってください。



卒業おめでとう。

1～2学年クラス担任 新井 好司

皆さん、卒業おめでとうございます。高専での5年間は皆さんにとって有意義なものだったでしょうか？有意義だったと言える人もいれば、後悔が残る人もいるかもしれません。

卒業生の中には、進学する人もいれば就職する人もいます。皆さんが進路を決める年には震災等もあり、特に就職を希望する人にとっては例年になく厳しい年であったかもしれません。進学する人も含め、入学時には想定していなかった厳しい現実に向かい、進路を決めた人もいますでしょう。いずれにしろ、これから進む進路は自分で決めた道です。厳しい現実や困難に負けず、いつまでも努力する気持ちを忘れずにいる人間になって下さい。これからの人生が、卒業生全員にとって有意義なものになることを祈っています。



卒業おめでとう。

3～5学年クラス担任 中村 奨

私たちのクラスは、日本人学生42名、留学生3名のバラエティ溢れる学生たちからなるものでした。意志の疎通に困る学生もいましたが、自分の息子とほぼ同年齢の学生と付き合っていくのは、結構面白いものがありました。

これから一人一人が、それぞれの人生を歩んでいきます。高専で学んだことを土台として、努力して自分の能力を高め、そして、人との縁を大切に、一日一日を過ごしてもらいたいと思います。能力がなければチャンスをもにすることはできません。人との縁を大切にしなければ豊かな人脈を築くことはできません。

小才は縁に出会って縁に気付かず
中才は縁に気付いて縁を生かせず
大才は袖すり合った縁をも生かす

[出典] 柳生家家訓 柳生宗矩



5年分の思い出と感謝

松本 紘希

長岡高専に入学してからのことを振り返ってみると、この5年間で私たちは多くの困難を乗り越えながら、とても貴重な経験ができたと思います。まず5年前にクラスの仲間達と出会え、5年を費やし最高のクラスを築き上げることが出来ました。私は3年次から級長を務めていたため、クラス全員をまとめる難しさや、何か目標に向かって全員で取り組むことの嬉しさをより多く感じる事が出来たと思います。

このような体験は高専在学中に出会った多くの人の支えがあったからこそ出来たと思っています。担任の先生を始め、長岡高専の先生方には学業だけでなく日常生活でも多くのご指導をいただき、私たちが進むべき道を明確に示していただきました。研究室の先生方には新しい道を切り開くきっかけを与えていただきました。5年間もずっと見守り続けてくれた先生方には深く感謝しています。また、両親や兄弟、仲間にも本当に感謝しています。最後に5年間通ったこの長岡高専にありがとうございますと言いたいです。



ありがとう！

梨本 啓太

「仲間と遊び、ときどき勉強」という自由な生活を送った結果、6年間の高専生活を満喫することになりました。この6年間で振り返ると、楽しいこと、苦しいこと、色々なことがありましたが、私にとってはかけがえのない貴重な時間でした。

新しいクラスに迎えられる時、正直かなり不安でした。「受け入れてくれるかな?」などと考えながら迎えた新学期を思い出します。最初は戸惑いながらも気軽に接してくれ、一緒に馬鹿をしてくれました。(俺だけが馬鹿していたかもしれませんが…) 本当に最高の仲間と出会えたなと思います。直接言うのは恥ずかしいので、ここでクラスみんなにお礼を言わせてもらいます。ありがとう!! また、先生方にはいろいろご迷惑をお掛けしま

した。本当に最後までご指導ありがとうございました。

卒業を迎えるにあたってそれぞれ違う進路となりますが、僕は就職という進路を選びました。自分で決めた進路ですから後悔せずに、胸を張って、仲間を信じ、苦勞を乗り越え、この高専で培った経験を活かし、誇りを持って社会人として歩んでいきます。



皆さんご卒業おめでとうございます。

1～2学年クラス担任 松永 茂樹

高専の教育課程を終えて卒業を迎える皆さんの感慨はひとしおであろうと推察します。

1, 2年生の頃の印象はとても素直で前向きな気持ちを感じられるクラスでした。1年次の学園祭の「かたぬき」など、随所に斬新な発想と企画力がありました。2年生の初めの5ヶ月間、私が在外研究員として学校を不在にし、その間大湊先生に担任をお願いしましたが、再会した皆さんには少し大人になった雰囲気感じられました。進級してからも時折皆さんの様々な活動について外川先生から聞いていました。皆さんが高専を卒業した後も、社会や進学先でさらに研鑽を積み、様々な形で世の中に貢献していくことを期待しています。



心豊かな技術者をめざそう

3～5学年クラス担任 外川 一仁

卒業おめでとう。5年間、学科の勉強は大変に厳しかったかもしれない。しかし、諸君はそれを無事にクリアしたのだから、自信を持って新しいフィールドに踏み出してほしい。科学技術はこれからも進歩して行き、さらに深化・高度化することだろう。それに関わる諸君は、未知に挑戦するのだから当然、一筋縄ではいかないことに直面することであろう。そんな時は、高専で受けた授業や卒研を思い出してほしい。きっと真っ先に浮かぶのは、身ぶり手ぶりを交えながら熱心に話をする個性的な先生の顔だろう。それは、とても人間臭く感じるに違いない。諸君が授業を通して学んだのは単なる教科書の知識ではなく、どんな時代でも有効な生きたものの見方・考え方である、と私は思っている。教養を高め、幅広く物事を見つめることのできる心豊かな技術者になってほしい。



5年間を振り返って

小林 友也

長いように思えた高専生活も終わり、いよいよ卒業する時がやってきました。私は長岡高専での5年間で多くの人と出会い、大きく成長することが出来たと思います。クラスメイトや先生方、研究室の方々、野球部の仲間など本当に多くの人たちと出会いました。そんな多くの人たちと関わることで専門的な知識だけでなく、多くのことを学ぶことができたと思います。その結果、受験でも第一志望の大学に合格することが出来ました。本当に感謝しています。

そして、私は春から新しい生活が始まります。慣れない環境での生活に不安は大きいですが、自分自身が成長できる機会でもあると思うので、長岡高専で学んだことに自信を持って人間としてさらに成長していきたいです。最後になりますが、この5年間で両親や、先生方、仲間など数えたらきりがないくらいの人たちにお世話になりました。そのおかげで卒業することが出来たと思います。本当にありがとうございました。



仲間の存在

五十嵐 涼子

今年の4月から私は社会人になります。東日本大震災のこともあり、今年度は例年に比べて内定をもらうことが容易ではなかったと思います。高専は就職率が良いと思いがちですが、現実にはそうでないということを、私は身を持って感じました。就職活動中はとても大変だったことを今でも思い出しますが、そのとき私の近くには励ましてくれる仲間がたくさんいました。面接当日にメールをくれた“仲間”，内定が決まらなくても「次があるよ!」と励ましてくれた“仲間”，内定をもらったときに一緒に喜んでくれた“仲間”，改めて思い出してみても、本当に“仲間”は私にとって大きな存在でした。

卒業して、みんな別々の道を進むことになりましたが、MB5のみんなが物質工学科で、このメンバーで5年間を過ごせてよかったと思えたなら、それ以上のことはないと思います。

クラスのみならず、この5年間で関わった全ての方へ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



卒業を祝す

2学年クラス担任 今野 哲

卒業生に対する餞の言葉は意外に難しい。卒業生諸君は、一人ひとり別個の人格であり、ましてやこの後はそれぞれ異なる道を歩んでいくことになるからだ。常に夢に挑み続ける人もいれば、静かに坦々と生きることを望む人もいるだろう。幸運に恵まれる人もあれば、不運に見舞われる人もあろう。他人とまったく同じように生きるというものはありえない。人生というものは、その人だけの唯一無二の形をとる。

結局のところ、人は死ぬまで生きるしかない。もちろん、生き方についての模範解答はない。が、私はその時々「いま」が大事だと思っている。いまこの瞬間の経験や出会いを大切にすることが生の秘鍵なのではないか。とまれ、卒業生諸君の唯一無二のかけがえのない生の完成を祈念している。



卒業おめでとう。

3～5学年クラス担任 田崎 裕二

5年間の頑張りが「卒業」という形で現れました。本当におめでとう。3年間の担任を通じて皆さんの成長を身近で見えてきて、最近では頼もしく思えることが増えてきました。4月から新たな生活が始まります。不安はあると思いますが、自分で選択した道です。これまでと同様に、頑張り続けてください。きっと素敵な未来が皆さんを待っています。皆さんには色々話をしたつもりですが、これが最後です。今後の参考にしてもらえるとうれしいです。

- ・「十人十色」人それぞれです。他の人と違っていい良かったと思きましょう。
- ・「失敗10, 成功1ぐらい」失敗して恥をかいて、成功のヒントを得ましょう。勇気を出してチャレンジしましょう。
- ・「ありがとう」自分にとって大切な人や物に感謝しよう。きっと自分を助けてくれます。



小さな積み重ね

白井 佑季

私が高専に入学してから5年の月日が経ちました。学校に通うことを憂鬱だとも思いましたが、途中でやめることなく5年間通うことができたのは高専に入ったことで出会えた方々の支えのおかげだと思います。

5年間で最も大変だと感じたのは勉強でした。実験や研究をはじめとした専門の勉強では、教科書に沿ってやっていくだけではなく、自分で考えることが重要だと身をもって実感することが出来ました。

部活動の中でも、数えきれないほどの貴重な経験が出来ました。もちろん楽しかったことばかりではありませんでしたが、試合や練習の中での全てのことが大切な思い出です。

私にとって、学校で過ごした日々の小さな1つ1つの出来事が大切な思い出であり、これから私が生きていくうえでの糧になるのだと思います。

様々な経験を経て、高専生活の中で大きく成長できました。高専で出会えた全ての人に感謝し、思い出を胸に、来年から技科大で頑張っていこうと思います。ありがとうございました。



高専でよかったこと

清水 雄一郎

私は5年生になって改めて高専でよかったと実感しています。というのも卒業後の進路は就職にしましたが、幸い就職先として東海旅客鉄道株式会社（JR東海）という素晴らしい企業に内定を頂くことが出来ました。その際に高専のメリットとして企業の採用試験で大卒や院卒はオープンエントリーになり倍率が高いですが高専は高専枠という別枠があり、オープンエントリーに比べ倍率は低いので自分をしっかりアピールすることが出来れば内定を頂ける確率は高いと思います。

また、自分をアピールする際に高専での生活は非常に重要になってきます。私の場合、小学生の時からからずっと野球を続けてきたので高専でも野球部に入部させて頂きました。野球部として活動していく中で自分の人間性など採用試験でアピールできるポイントを得ることが出来ました。企業の採用試験では学力よりも社会や企業が必要とする人間性が重要だと聞きます。

高専では是非、部活や課外活動など積極的に活動して下さい。



「為せば成る」でこれからも

1～2学年クラス担任 小川 秀

卒業おめでとうございます。平成19年春に初々しい皆さんをクラス担任として迎えた際に、「これから『自分が身につけたもの』が財産。」という話をしました。その時に不安と期待でいっぱいだった心も今は一つの達成感に満ちているのではないのでしょうか。

こうして卒業まで歩んできた皆さんには経験という素晴らしい財産（宝物）が身につけています。いろいろな困難に立ち向かったこと、友人との時間、長岡の豊かな自然と四季の変化、夏の花火…。これらの経験一つ一つは、皆さんが今後の人生を自ら選択する上での『感性』となるはずで、正解のない人生を進む上では、何よりもこの『感性』が頼りです。

多くの経験や思い出とともに巣立っていく皆さん、健康はもちろん、出会った友や家族など周囲の方々を大切にしてください。これからも数々のチャンスが待っています。「為せば成る」でいきましょう。



環境都市5年生に贈る言葉

3～5学年クラス担任 岩波 基

初めてクラス担任を引き受けるにあたって、なるべく早い時期に人生設計を考えることと、自己実現するために努力することを学んで欲しいと考えました。

現実には、自分の希望の道に進学や就職をする人と思い通りに行かなかった人がいます。しかし、どのような道に進むこととなっても、今の時点で人生が全て決まるわけではありません。卒業してからこそが本当に自分を試される時期であり、自分の希望を叶える機会が多くあると思います。「自分の明確な目標を持つ」、「諦めない」、「何事もなめてかからない」これらを忘れないで自分の好きな道を進んでください。みなさんの活躍を期待しています。何か困ったことがあったら気軽にメールしてください。連絡をいつでも待っています。



掛け替えのない財産

電子機械システム工学専攻
(機械工学科出身)

小山 剛

高専生活を振り返ると、様々な思い出が浮かんできます。期待と緊張、半々で入学した時から本科終了まで5年間、当初は高校とは違うシステムに戸惑ったことも多く、正直辞めたくなくなったこともありましたが、しかし、そんな私が辞めずに本科を修了出来たのは、学校生活、特に寮生活を通してできた掛け替えのない親友達のおかげだと思います。彼ら・彼女らがいなければ、決してここまで来られなかったでしょう。

専攻科ではきつい事も多々ありましたが、彼らの多くが就職もしくは大学へ編入したにも関わらず、支えてくれました。そしてこれからも、彼らが一生涯の友である事に変わりないでしょう。そんな親友達に、また出会えた高専という環境に、そして本科・専攻科とお世話になりました指導教員を始めとする教員・技術職員の方々、本当にありがとうございました。



高専生活を振り返って

電子機械システム工学専攻
(電気電子システム工学科出身)

進士 智一

15歳から22歳という大切な7年間を長岡高専で過ごし、卒業間近になって振り返ると、とても有意義な時間だったとハッキリ言えます。多くの時間を共有し、共に工学を学んだたくさんの仲間と親睦を深めることができ、生涯の友人が幾人かできたことを本当にうれしく思っています。そして、講義における多くの先生方の熱いご指導と、特に3年間の研究活動において素晴らしい環境を提供していただいた片桐先生、研究室の仲間の影響によって、ものづくりに関する仕事がしたいと強く思うようになりました。将来に向けての大きな財産となる友人・知識・技術・目標などを自分に与えて頂いた学校と、先生方・学生をはじめとし、自分に深く関わって頂いた全ての人々に深く感謝します。本当にありがとうございました。



勉強・部活だけでなく

電子機械システム工学専攻
(電子制御工学科出身)

土田 佳裕

本科時代に熱心に取り組み、部長まで勤めた部活動、5年生から3年間の研究活動、7年間の高専生活には様々な思い出がある。その中で一番印象に残っているのは、本科2年生のとき、当時の担任と教員室でいろいろな話をしたことである。授業のことやクラスの

ことといった学校生活の話だけでなく、身の回りの出来事や日本の現状など様々なテーマで語り、あっという間に半日が過ぎていた。当時16歳の私にはとても有意義な時間であり、現在の私の価値観・人生観に大きな影響を与えている。後輩諸君も時間を見つけて教員と語りあって、自分の視野をもっと広げてみてほしい。

最後に、指導教員をはじめとして、私の高専生活に関わってくださった教職員の方々に深く感謝し、この場でお礼を述べたいと思う。7年間ありがとうございました。



高専生活で得たもの

物質工学専攻
(物質工学科出身)

五十嵐 佑樹

「7年間」。これまでの人生の約3分の1を長岡高専で過ごしてきました。長いようで短かったというのが率直な気持ちですが、振り返ってみるとたくさんの思い出が詰まった7年間だったと思います。中でも研究室での生活は、一日一日が濃かった分得るものも多かったように感じています。3年間面倒を見て頂いた指導教員をはじめとして、研究内外の物事に真摯に取り組む姿勢を見せてくれた先輩方、一緒に騒いで笑った仲間たち、自分のことを支えてくれた後輩たち、本当に様々な人に出会って多くのことを学びました。その全てが自分にとって大きな財産です。このような環境を与えてくれた長岡高専に感謝しています。卒業後は新しい生活が待っていますが、長岡高専で得たものを忘れずに頑張っていきたいと思えます。最後に、高専生活でお世話になった教職員、学生の皆さん、本当にありがとうございました。



高専生活の7年間

環境都市工学専攻
(環境都市工学科出身)

中澤 智博

勉強、部活、行事そして研究、この7年間でいろんな事がありました。そして、いつの間にか、今年の3月に卒業です。本当に、あっという間に過ぎた7年間でした。いろんな思い出がありすぎて、ここでは書くことができませんが、最高の思い出が詰まった7年間です!! その7年間に、素晴らしい先生方や先輩、後輩、そして仲間と出会う事が出来ました。いろんな世代の方々と出会いができ、交流することができる高専は素晴らしい所だと思います。特に、5年間、または7年間を一緒に過ごした仲間は一生の宝物です!このような出会いは、社会に出てからも、きっと役に立つと思います。

みなさん!7年間本当にお世話になりました。そして、これからも、何かあったときはお世話になると思うので、その時はよろしく願います。



“GOOD BYE”

機械工学科 5年 ハリス パディラー

日本に来る前、私は日本がどう言った国なのか様々な面について考えていました。自分が環境に適応することができるかなどを少し悩んでいました。成田空港に到着した後、東京を見てやはり日本はとても発達している国だと改めて思いました。その日は初めて新幹線に乗り、東京から長岡までたった1時間半で到着したことにとっても驚きました。そこから私の高専の生活が始まりました。

高専に入って、私はやせるため部活に入ろうと思いました。高校生の時、学校のバドミントン選手が私に才能があると言ったこともあり、自分なりに考えた上でバド部に入ることにしました。そこではたくさんの友達を作ることができました。部活では長岡市内のYONEX大会で2位になるなど、活躍することができとても良い思い出になりました。また、冬になると雪がしばしば降るのでとても嬉しいです。なぜかと言うと毎年インターアクトクラブの妙高杉の原のトリップでスノーボードが滑れるからです。

高専生活では、学園祭、寮祭、運動会などがとても楽しかったです。3年間皆にお世話になって本当にありがとうございました。



SELAMAT TINGGAL

機械工学科 5年 ムハammad ファイズディン

日本に留学するのは、簡単に手に入れられることではありませんでした。マレーシアの政府と国民の代表としていろいろな責任と一緒に来ました。私は最初に「世界がこんなに広い、人々はこんなに独特で、ここはこんな便利なライフスタイルがある」という日本に対するいい印象を持っていました。あっという間に長岡高専でもう3年間を経ちました。この貴重な3年間は、ただの学校での勉強と寮の生活だけでなく、色々な知識や経験などをもらいました。国際交流ができたり、マレーシアでは降らない雪と遊んだり、スノーボードをしたり、花見と花火大会を見たりすることはとても忘れない思い出です。この留学で、日本人の友達だけでなく、他国の友達もでき、私の国の友達もたくさんできました。しかし、私達もそろそろ卒業を迎えます。こんな輝かしいライフはなくなるかもし

れません。しかし、長岡から離れても、心のそこに、ずっとこんな美しい思い出がいつでもあります。一生忘れることになれないものです。本当にありがとうございました。



言いたくないのに、bye bye...

電気電子システム工学科 5年 オン ホン ヤオ

この「さようなら」のメッセージを書き始めた時、窓の外では雪がぼさぼさ降っています。2ヶ月後には、もう別の所に行ってしまう私にとって、この風景は長岡に遊びに来た時にしか見ることができません。3年前に長岡駅に着いた時、学生課の渡邊さんに出迎えてもらいました。つい最近のこのように思えるのに、今の私は、もう卒業の準備をしています。3年生の時は先輩達にお世話になり、4年生の時は先輩と一緒に後輩の面倒を見て、そして現在は、高専の中で一番「年上」の先輩になっています。

高専に編入学してから今日まで、周りの人たちからいろいろなことを教えてもらいました。勉強ばかりでなく、礼儀作法も教えてもらいました。課外活動では、バドミントン部に入った私を顧問の矢野先生が指導してくださいました。地区大会に参加して、その地域の文化や食べ物を経験することができました。思い出すのは栃尾の油揚げです！

最後の最後になりますが、クラス担任の中村先生にはお世話になりました。私が困っている時も、進路先で悩んでいる時もいつも先生は助けてくださいました。長岡高専は私にしばしばの良い思い出を与えてくれました。Bye bye みなさん！



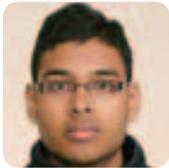
さよなら長岡高専

電気電子システム工学科5年

アロゴ エラ ジョフルワ ギシャー

長岡に来てもう三年が経ちました。気づかないうちに時間が過ぎました。いろいろな旅をして、いろいろな人と出会って、いろいろな伝統的な習慣を学びました。長岡は美しい街ですが、気候風土は私にはつらいものでした。私は冬が嫌いです。寒いので眠たくなります。寒い時でも部屋の温度は24℃までしか上がりません。もっと太陽の光を全身で(UVもIRも)浴びたいです。でも幸いなことに、なんとか鬱病にはならず済みました。それはプログラミングのおかげです。毎晩、少なくとも一つのプログラムを作りました。

最初は寝不足感じましたが、今はもう慣れました。これまでたくさんのプログラムを作りましたが、もっとも楽しかったのは全国高専プログラミングコンテストに関するプログラムです。他の高専の人とインターネットで戦うのは、最高の気分でした。戦った相手の中で2人は本当に天才でした。彼らの名前を一生忘れません。もっと高いレベルのプログラミングをするためには、数学と電気の知識が必要です。これらの学問を学ぶために大学に進学します。



大好き長岡高専

電気電子システム工学科 5年
ソロフェ サレヒン サウラヴ

日本に来てもう4年と半年が経ちました。その中の3年間を長岡高専で過ごしました。長い人生から見るとこの3年間は短いですが、私にとっては大切な3年間でした。実践的な技術者になるために長岡高専に編入したわけですが、その夢に一步步近づいています。今は学校の先生方や職員のみなさん、そして友達に感謝の気持ちでいっぱいです。みんなの協力があったからこそ、悩みや勉強を乗り越えることができました。初めての海外留学なので、ただ勉強するだけではなく、いろいろな体験をすることができました。花見、雪、スノーボード、地震や異文化交流など、すべてが初めてでした。これらのおかげで、たくさんの忘れられない思い出ができました。高専から離れてもそれらを大切にします。あともう少しで卒業です。大変お世話になりました。私は長岡高専が大好きだ！



また会いましょう!

電子制御工学科 5年 ケリン

「長岡はどんな所?」と聞かれたら、間違いなく、「景色がすごく綺麗!」と答えます。3年間長岡に過ごしてきて、本当に長岡が好きになりました!高専のおかげで、生け花、太鼓、相撲など、色々な文化体験ができて、楽しかったです。

留学するのは、周りの人達から支えがないと、難しいことだと思います。日本人だけではなく、高専にいる留学生と会えて本当に嬉しいです!色々な人と話し、考え方が違う時、いつも面白いだなぁ~と思っています。違う国で育てられたから、話し方や考え方など多少違うところがあると思いますが、やっぱり大切なのはお互いに納得して、理解することです。毎日、私達とすれ違う

人は数え切れないほど多いと思いますが、友達までなれるのは縁の力だと思います。5年生の皆さんこれから自分の夢に向かって、ばらばらになると思いますが、一緒に頑張りましょう!卒業しても、皆さんとの繋がりはここで終わりではなくて、機会があったら、また長岡に来て、皆さんと会いたいです!

最後に、私が困った時いつも手伝ってくれた先生方、職員と友達、この3年間大変お世話になりました。皆さんと一緒に過ごす時間は人生の中で忘れられない思い出です。ありがとうございます!



高専楽しかった

物質工学科 5年
アハマド バイハキ ビン アブドラザク

最初に、この文章を読んでいるみんなにありがとうと伝えたい。私は長岡高専に来てとても良かったと思います。日本に来る前はちょっと心配でした。しかし、来てすぐに知り合ったチューターの小川龍一さんと荒木拓馬さんに色々助けてもらいながら、少しずつここでの生活になれていきました。また、担任の田崎先生とMB5の友達が色々教えてくれたことに大変感謝しています。かわいい後輩達ともたくさん遊ぶことができ、良い思い出がいっぱいできました。留学生担当の丸山先生、中村先生と矢野先生、そして寮のみんなにも大変お世話になりました。私はこの3年間長岡高専で、勉強だけでなく人生についても学ぶことができました。ここで得た知識と経験は、きっと社会に出た時に役立つと思います。最後に、さようなら、そしてありがとうございました。





縁

一般教育科 岩瀬 誠一

人生に「もし」は無いかも知れないが、大きな分岐点は確かにあったと思う。愛知県出身の私が、なぜ長岡にいるのかを考えると何か不思議な縁を感じる。もし新潟大学・数学科に合格していなければ、今とは違う人生を送っていたはずである。無事、新大に進学し、長岡で暮らすようになったのだった。

長岡高専でははじめの頃を思い出してみると・・・

1年目：高専に慣れようと夢中で過ごしていた。見た目は学生とあまり変わらなかったかも知れない。卒業式の日、校長に握手されそうになった。

冬は慣れない雪と連日格闘していた。

2年目：初めての担任。新入生合宿研修で行ったオリエンティングでは、担任もチームを作り学生と一緒に

巻の研修センターの周辺を走り回った。学生も元気であったが、先生方も元気いっぱいであった。

あれから30数年が過ぎようとしている。高専は個性豊かな先生が多く、少々変わっていても目立たず、おおらかに過ごせたと思う。今まで助けて頂いた先生・職員・学生の皆さんに、ありがとうの感謝を込めて・・・。



定年にあたり思う

電子制御工学科 石田 博樹

1985年(昭和60年)の4月に長岡高専に着任した当時、高専の設立趣旨や存在意義が疑問に思えてなりませんでした。着任して直ちに、私は自分に課した義務として以下のことを決意しました。(1)高専の実像を一般社会に公開する。(2)高専に不適應で悩む学生を救う。(3)研究者としての自分の姿勢を失わない。(4)若手教員に研究者としての姿勢を維持させる。そのため、私は、今日までに、高専制度の問題点とその打開策を、教育雑誌やインターネットにて忌憚なく展開し、それらには賛同の意見を全国からたくさん頂いて来ました。今、私は、上記の義務を果たせたと思います。学生には、常に、就職よりも大学編入を勧め、また、高専に不適應な学生には「進路変更は決して敗北にあら

ず」と説得し、当人の希望する分野への進路変更を積極的に勧めてきました。高専は創立当初から多くの重大な矛盾を抱えています。高専創立50周年を「祝賀」だけで捉えることはできません。高専に関する文部科学行政は行政責任を果たさなければならぬと思います。



10年を振り返って

物質工学科 加藤 正直

10年前に前任地から長岡高専に転任し、今年度で定年となりました。思えばこの10年は大変な10年間でした。高専ではこの間、2004年の大水害から中越地震、中越沖地震に見舞われ、学校の再建にあたっては学生も

教職員も多大な苦勞を強いられたことはご存知の通りです。大型ダンプが走り回る中での授業と卒業研究は今となってはいい思い出です。

これらの自然災害は修理すればなおりますが、高専にとっては、内部の動きのほうが将来的には大変な事態を引き起こすことになるかもしれません。15歳人口の減少と「ゆとり」教育の弊害、成績の相対評価から絶対評価への切り替え、研究条件の悪化などです。長岡の誇りである米百俵の精神

はどこに行ったのでしょうか?国の教育行政の無定見さは目に余るものがあります。今後、高専はますます厳しい時代を迎えると思いますが、大丈夫なのでしょうか。

とはいっても、個人的にはこの十年でいくつかの学術論文と特許を公表し、2冊の教科書を上梓し、また国際会議で発表することも出来ました。これは、物質工学科の学生たちと、とりわけ私の研究室を選んでくれた学生のおかげでもあります。改めて感謝したいと思います。

私は今年度で退職しますが、教職員の皆さんの幸運を願っています。



Always 冬の^{おきび}燠火

教育研究技術支援センター 高橋 恭一

私達の幼年時代、冬の暖はコタツだけで燃料は練炭か豆炭でした。前日の煮炊きに使った薪の燠火を二次利用し練炭等への着火、或は燠火コタツとしてそのまま利用されていました。

電話も自家用車もない時代、情報通信技術の世界では東京タワーが建造されテレビ放送が開始されました。

あれから五十年、そのアナログ波は停波、地上デジタル放送に替わり、東京タワーからスカイツリーに替わろうとしています。この例を待たずとも科学技術のステージが著しく変貌する中、高専教育もまた更にバージョンアップしていくことが社会的にも必須と思われま。この激動のなか、私は殆どの時を高志台で過ごさせて頂

きました。優秀な学生諸君と教職員各位に支えられて「人生の大きな節目」を迎えることが出来ありがとうございました。この気持ちの反面、冬木立の様な心寂しさも残ります。もう暫らくは、既述した燠火の心境で勤めさせて頂きます。宜しく願いいたします。



ありがとうございました。

学生課 保健室 石丸 のり子

人間に興味を持って医療の道に進み、結婚、出産を経て路頭に迷っていた人生半ばに、縁合って、長岡高専にお世話になってから20年、医療現場から学校現場の人たちに出会い、考えることの刺激を学生さんや皆様から頂き、また学生さんからは心身の成長期を共に享受することができたことは、私にとってかけがえの無いものとなっています。

振り返ると良い日々でした。いろいろあって人間っていいなと思う今日、定年という受け入れがたい不気味で不思議な気持ちですが、その意味はこれから体感して行くものだろうと、これから先もわくわくしています。

今まで皆様から、ご支援して頂きここまでこれたこと心から感謝申し上げます。ありがとうございました。





今号の専攻科だよりでは、1月24日に行われた第11回専攻科特別研究発表会ならびに長岡高専技術協力会分科会、1月28日に行われた第17回高専シンポジウム in 熊本と今年度の専攻科生の進学・就職先に関する記事を掲載致します。

専攻科特別研究発表会

電子機械システム工学専攻

日時：平成24年1月24日(火) 13:00～17:25
場所：まちなかキャンパス長岡

物質工学専攻

日時：平成24年1月24日(火) 13:00～18:00
場所：アトリウム長岡

環境都市工学専攻

日時：平成24年1月24日(火) 14:00～17:35
場所：ホテルニューオータニ長岡



『7年生，6年生』

物質工学専攻1年 近藤 位旨

今年度の専攻科特別研究発表会に参加したことで、先輩達の7年の軌跡はとても長く地道なものだったことがわかりました。小学校よりも長いと笑い話にすることもありますが、7年間で学んだであろうことはとても多く、価値のあるものだと感じました。どれだけの苦労があったのかは言うまでもありません。私たちも先輩同様に日々研究に取り組んでいますが、上手く行かないことばかりで、時には他の研究室の先輩にアドバイスしてもらうこともあり、何度も助けられてきました。先輩方はもうすぐ本校を卒業されるので、四月からは新しく専攻科に入学する学生の見本になれるように務めていきたいと思います。私も卒業までの時間を目一杯使って、先輩方に劣ることのない研究成果を出せるように頑張りたいと思います。



特別研究発表会の感想

電子機械システム工学専攻2年 野村 昂史

1月末にまちなかキャンパスにて、専攻科生による特別研究発表会が行われ、1年生はポスター形式、2年生は口頭形式で発表しました。

当日までに発表練習を十分に重ねて自信をつけてきたはずでしたが、人前に立つことが苦手なため、発表する順番が近づくにつれて、他の人の発表を聞くことが出来ないくらい緊張していました。順番も最後の方だったため、「早く終わりたい」と思いながら待っていました。いざ自分の発表になると、10分は短く感じられ、質問に対する答えがうまく説明できていなかったとは思いますが、落ち着いて発表できていたと思います。

今まで、本科の卒業発表や学会発表で経験してきたものが活かされたのか、私自身の研究発表の中で一番いい発表となったと思います。



専攻科特別研究発表会に参加して

環境都市工学専攻2年 高橋 良太



本科4年生の頃から続けてきた卒業研究・特別研究の集大成を見ることができた発表会でした。私の研究テーマは環境都市工学科の中でもマイナーな分野であるため、学会発表で使用する様な専門用語等は極力使用せずに発表を行いました。研究を簡単に誰にでも分かりやすく伝える事は重要ですが、いざ行なってみると予想以上に難しく、資料作成に四苦八苦しました。研究発表会では普段関わることの無い研究分野の先生や専攻科生、技術協力会の方々から大変参考になるご意見を頂き、有意義な討議ができたと感じています。また、自分の発表だけでなく仲間達である専攻科生の研究発表を聞くことで、自身の分野の殻に閉じ籠ってはいは得ることのできない考え方や発表技術を学ぶことができました。専攻科を卒業した後もこの経験を活かし、社会で活躍出来るような人材になりたいと思います。



第 17 回高専シンポジウム in 熊本

2012 年 1 月 28 日(土)に高専シンポジウム協議会・熊本高等専門学校が主催する第 17 回高専シンポジウムが熊本県熊本市崇城大学市民ホールと熊本市国際交流会館にて開催されました。シンポジウムの発表件数は 389 件(口頭発表: 273 件, ポスター発表: 116 件)で、本校からは 8 名が参加致しました。開催地が遠距離という事もあって、例年よりも参加者が少ない状況でした。



高専シンポジウムに参加して

電子機械システム工学専攻 1 年 林 風騎

私は、1 月 28 日に熊本県熊本市の崇城大学市民ホールで行われた高専シンポジウム in 熊本に参加しました。今回のシンポジウムでは、全国の高専と技術科学大学から 389 件の参加がありました。発表には口頭発表とポスター発表があり、私はポスター発表で参加しました。発表では、他高専で近い研究をしている学生と教員の方と、多くの意見交換を行うことができました。また、口頭発表では、長岡高専内では行われていないような発表を聞くことができ勉強になりました。

高専シンポジウムは、毎年開催場所が違うため、様々な場所に行くことができます。熊本は新潟と比べて温暖な気候なため、とても過ごしやすかったです。また、熊本の特産品である馬刺しや熊本ラーメンがとても美味しかったです。

来年は仙台で開催されるそうです。他高専の方と交流したい、学会発表をしてみたいという方は参加してみてはいかがでしょうか。

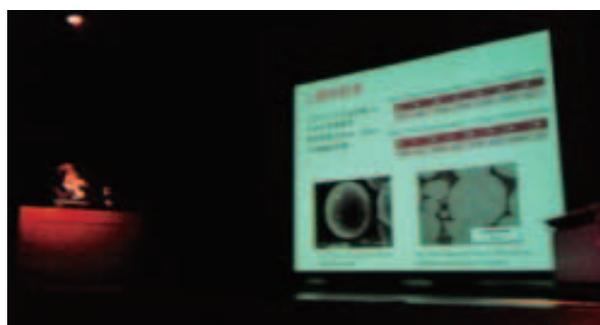


高専シンポジウムを終えて

電子機械システム工学専攻 2 年 松矢 武彦

2012 年 1 月 28 日、第 17 回高専シンポジウムに参加しました。発表は熊本県熊本市国際交流会館および崇城大学市民ホールで行われま

した。全国の高専が知識の交換並びに連携の場とし、高専教育に関する学術研究等の普及、地域産業、行政、教育機関並びに市民との連携を密にすることを目的として毎年開催されています。電子機械システム工学専攻 2 年生からは、材料科学研究室の私と、渡辺哲平君で発表を行いました。発表形式は、口頭発表とポスター発表から選べ、私たちは口頭発表で行いました。様々な分野が集まるシンポジウムのため、あまり専門的な質問はなく、基本的な質問のみであったため、質疑応答は問題なく行うことができました。しかし、会場は大きく人数も多いため、緊張はありました。大きな会場で発表する機会はあまりないので、良い経験になったと思います。



専攻科 2 年生の進学・就職先

今年度の進学者数は 16 名、就職者数は 19 名となり約 45% の学生が進学致しました。今年度の傾向としては、長岡技術科学大学大学院に最も多く進学し、就職に関しては県内の企業に多く就職致しました。

■ 進学先

首都大学東京大学院 (1)	奈良先端科学技術大学院大学 (1)
東京工業大学大学院 (1)	北海道大学大学院 (1)
長岡技術科学大学大学院 (12)	

■ 就職先

太平洋特殊鑄造 (株) (1)	旭化成ケミカルズ (株) (1)
(株) ツガミ (1)	三菱瓦斯化学 (1)
TDK ラムダ (株) (1)	(株) テレコメディア (1)
栄通信工業 (株) (1)	エヌ・ティ・ティ・インフラネット (株) (2)
三菱電機特機システム (株) (1)	(株) 開発技術コンサルタント (1)
ソーラーフロンティア (株) (1)	(株) 熊谷組 (1)
新潟県警察 (1)	(株) ネクスコ・メンテナンス新潟 (1)
中外製薬工業 (株) (1)	新潟市水道局 (1)
(株) クラレ (2)	

() は人数

TOPICS

卒業生・修了生表彰

(学科)

功労賞	電気電子システム工学科 電気電子システム工学科 物質工学科	岡田 貴之 川上 雄太 宮井 菜月	独立行政法人国立高等専門学校機構学生表彰 電子機械システム工学専攻 山口 幸士
精励賞	機械工学科 電気電子システム工学科 電子制御工学科 物質工学科 物質工学科	菅 堅将 長澤 忍 松本 紘希 渡邊 響子 荒木 拓馬	学会賞 日本機械学会 畠山賞 機械工学科 菅 堅将
皆勤賞	機械工学科 機械工学科 機械工学科 機械工学科 機械工学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子制御工学科 電子制御工学科 物質工学科 環境都市工学科 環境都市工学科	小川 貴史 小林 卓矢 菅 堅将 土肥 一生 林 健太郎 古川原 峻 松原 祐人 三浦 進也 伊藤 甲斐 多田 周作 小林 大記 間島 航 若林 翼	第21回電気学会東京支部新潟支所研究発表会 優秀発表賞 電気電子システム工学科 長澤 忍 日本化学会関東支部 支部長賞 物質工学科 渡邊 響子 全国高専土木工学会 近藤賞 環境都市工学科 小宮 和樹 電子情報通信学会 信越支部 学生奨励賞 電子機械システム工学専攻 風間 裕樹 電子機械システム工学専攻 進士 智一 第21回太陽光発電国際会議 (PVSEC-21) Student Paper Award 電子機械システム工学専攻 山口 幸士
善行賞	機械工学科	金子 将之	平成23年度土木学会トンネル工学研究発表会 優秀講演奨励賞 環境都市工学専攻 齋藤 良一
(専攻科)			
特別表彰	電子機械システム工学専攻 電子機械システム工学専攻 環境都市工学専攻 環境都市工学専攻	斎藤 紘 山口 幸士 大嶋 義章 齋藤 良一	同窓会長賞 陸上競技部 機械工学科 安芸 恵太 電気電子システム工学科 梅澤 将充 電子制御工学科 安達 人志 環境都市工学科 阿部 哲雄
			ロボティクス部 機械工学科 古川原 峻 電子制御工学科 多田 圭祐

進路状況

学科

平成 24 年 3 月 13 日現在

学科名	区分	卒業者数	進学者数	就職者数		その他
				県内	県外	
機械工学科		42	30	3	8	1
電気電子システム工学科		45	26	5	11	3
電子制御工学科		42	31	3	3	5
物質工学科		37	25	2	10	0
環境都市工学科		39	24	6	8	1
計		205	136	19	40	10

専攻科

平成 24 年 3 月 13 日現在

専攻科名	区分	修了者数	進学者数	就職者数		その他
				県内	県外	
電子機械システム工学専攻		21	14	5	2	0
物質工学専攻		7	2	2	3	0
環境都市工学専攻		9	2	3	4	0
計		37	18	10	9	0